



江戸優り

佐原の大祭

国指定重要無形民俗文化財

日本遺産認定

北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み



ユネスコ無形文化遺産登録

夏祭り ●山車10台

7月10日以降の
金・土・日曜日

秋祭り ●山車15台

10月第2土曜日を中日
とする金・土・日曜日



※開催日程は変更となる場合がありますので、お越しの際は予めご確認ください。

ユネスコ無形文化遺産登録

日本遺産認定

北総四都市江戸紀行「江戸を感じる北総の町並み」

国指定重要無形民俗文化財

江戸優り 佐原の大祭

佐原の大祭は、7月10日以降の金・土・日曜日に行われる八坂神社祇園祭と10月第2土曜日を中日とする3日間に行われる諏訪神社秋祭りの2つのお祭りの総称をいいます。

上部に大人形、周囲に豪華な彫刻が飾り付けられた、総構造りの重厚な山車が、佐原囃子の音とともに歴史的町並み(国選定 重要伝統的建造物群保存地区)の中を曳き廻されます。さらに、山車の前では手古舞の流れをくむ手踊りが披露され祭り気分は一層盛り上がります。

この祭りの起源は資料がなく不明ですが、佐原は江戸時代中期から利根川舟運により繁栄し、その財力を背景に祭文化が発展し、また江戸との深い経済・文化の交流から江戸の山王祭や神田祭を強く意識し江戸より優れた山車祭りの実現を目標に形成されてきました。約三百年にわたりその伝統は脈々と今に受け継がれています。

平成16年2月には「佐原の山車行事」として、「佐原囃子」と共に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

また、平成28年11月30日(日)本時間12月1日)にエチオピアで開催された第11回政府間委員会において、佐原の山車行事を含む「山・鉦・屋台行事」が、「ユネスコ無形文化遺産」に登録されました。



第二章 民俗文化財 段物の部

日本三大囃子 佐原囃子



佐原囃子

山車の中天上と呼ばれる下高欄で演奏される佐原囃子は情緒的なメロディーを主体とする独特の祭り囃子です。佐原では、お囃子を下座と呼び、囃子方を下座連といいます。楽器は、笛・大皮・小鼓・大太鼓・小太鼓・すり鉦で、15人位で演奏される和楽器のオーケストラです。曲目は40曲以上あり、ゆっくりとした山車の動きに合わせて作曲された「段物」、民謡や各時代のはやり歌、またテンポの速い曲等の「端物」、山車の出発等、儀式的に奏する「役物」に分類されます。これ等の曲は山車が曳き廻される道の雰囲気に合わせて演奏されます。佐原囃子の独特の響きと曲の多さは、他の囃子には類例がありません。

2124							
121 616							
⊕ ⊕							
212424							
5 5							

主な曲目

- 段物** 吾妻、巢籠り、さらし、神田、八百屋、段七、曾我、盾、くずし
- 役物** 砂切(さんぎり)、馬鹿囃子、はな三番叟
- 端物** おやまか、猫じゃ、矢車、巢籠りくずし、津島、吉野、剣囃子、大和、佐原音頭、佐原小唄、松飾り、あんば、大杉あんば、大漁節、ラッパ節、船頭小唄、申本節 等々

※背景は佐原囃子の伝承のために昭和23年に初めて作られた譜面



◆天鈿女命
あめのうずめのみこと

〔本川原〕

- ①明治15年(1882年)
- ②文化元年(1804年)
- ③鼠屋五兵衛
- ④吹楽(しょうらく)
- ⑤江戸の人形師鼠屋の銘が御頭内部に確認された。鳥称あめさんは現存使用最古の飾り物と判明。



◆経津主命
ふつぬしのみこと

〔荒久〕

- ①平成30年(2018年)
- ②大正9年(1920年)
- ③三代目 安本龜八
- ④威徳(いとく)
- ⑤飾り物は香取神宮の祭神。彫り物も立派で、特に方立(柱觸し)は優れている。



◆伊弉那岐尊
いざなぎのみこと

〔田宿〕

- ①嘉永4年(1851年)
- ②明治43年(1910年)
- ③面穴
- ④雑奏(ようたい)
- ⑤山車は漆塗りで、格天井には漆繪を施している。



◆金時山姥
きんときやまんば

〔寺宿〕

- ①嘉永3年(1850年)
- ②明治12年(1879年)
- ③鼠屋五兵衛
- ④幣巻(へいたい)
- ⑤飾り物は足柄山での少年期を表し、熊にまたがり斧をがし、力強さを表している。



◆武甕槌命
たけみかづちのみこと

〔浜宿〕

- ①平成9年(1997年)
- ②昭和12年(1937年)
- ③鼠屋
- ④菜和(にゅうわ)
- ⑤山車彫刻は嘉永元年から四年間かけて制作されたもの。



◆鯉
こい

〔八日市場〕

- ①明治29年(1896年)
- ②文政年間(1818~1830年)
- ③八日市場区
- ④鯉の彫刻
- ⑤飾り物の鯉は、麦わらを使い、町内全員の協力で作られた。5年ごとに制作。今の鯉は令和元年の作。

山車の曲曳き

の字廻し



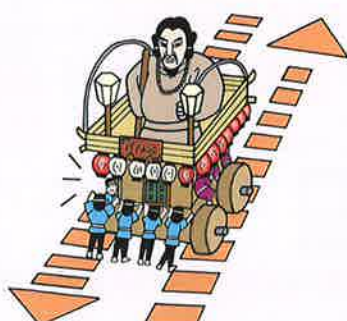
山車走行を一度停止させてから行う方法と、山車走行を止めずに行う「まわしこみ」がある。廻転演技中はゆっくり廻しかつ山車の停止は恥とされている。

こぼん廻し



山車を小判の形に楕円を描く様に曳く。常に一定速度と角を曲がる技術は見た目の派手さこそないがなかなか難度であり、職人技である。

そろばん曳き



山車を直線に往復。豪快さと早さ、山車を止める力強さは興奮の一言。

凡例

◆飾り物
〔町内名〕

山車

- ①山車の制作年代
- ②飾り物の制作年代
- ③飾り物の制作者
- ④額の文字
- ⑤一口メモ



◆神武
じんむ

〔船戸〕

- ①平成9年(1997年)
- ②明治20年(1887年)
- ③三代目 原月舟
- ④蒸餅(じょうかん)
- ⑤彫り物に良いものが多いが、中でも鯉の彫り物が優れているという。



◆鷹
たか

〔仁井宿〕

- ①平成11年(1999年)
- ②宝暦年間(1751~1764年)
- ③仁井宿区
- ④仁愛(じんあい)
- ⑤飾り物の鷹は、麦わらを使い、町内全員の協力で作られた。4年ごとに制作。今の鷹は平成29年の作。



◆太田道灌
おたどうかん

〔正仲町〕

- ①明治34年(1901年)
- ②大正10年(1921年)
- ③大柴徳次郎
- ④徳威(とくい)
- ⑤山車は社寺建築の「本枘組造り」の様式が取り入れられた重厚なもの。



◆菅原道真(寛公)
すがわらみちざね(かんこう)

〔下仲町〕

- ①文政5年(1822年)
- ②大正10年(1921年)
- ③三代目 安本龜八
- ④焔餅(しょうとく)
- ⑤玉藏、天藏は安政3年(1856年)の作。平成24年、古文書の発見により、現存する佐原最古の山車と判明。



◆鎮西八郎為朝

〔上中宿〕

- ①嘉永5年(1852年)
- ②明治15年(1882年)
- ③嵐山伝吉
- ④富士山の彫刻
- ⑤彫り物は「柱福し」といわれる技法で富士の裾野での巻き狩りの様子が見え、柱をつまぐ開いている。



◆建速素盞鳴尊

〔下川岸〕

- ①明治31年(1898年)
- ②江戸後期
- ③不詳
- ④宏遠(こうえん)
- ⑤山車は「八方にらみ」といわれる形で四方の向とちから見て両向き様に見える。



◆神武天皇

〔仲川岸〕

- ①明治31年(1898年)
- ②明治31年(1898年)
- ③不詳
- ④博如天(ひろかるとんめこと)
- ⑤三方正面造りの山車で、通し柱8本で製作。材料の樺(けやき)は九州の玉目の一本取り。



●10月第2土曜日を中目とする金・土・日曜日



◆諏訪大神

〔上新町〕

- ①昭和11年(1936年)
- ②昭和11年(1936年)
- ③上新町区
- ④穀神(いけいしん)
- ⑤大柁を飾り、八咫鏡(やたのかがみ)の商標に旗などが描かれている。



◆瓊瓊杵尊

〔西関戸〕

- ①昭和10年(1935年)
- ②昭和12年(1937年)
- ③嵐屋(昭和15年贈付)
- ④神威映映(しんいけい)
- ⑤額は後藤朝光作の彫り物で飾られ、文字は明治神宮の元宮句「有馬良儀氏の筆」。



◆大楠公(楠木正成)

〔東関戸〕

- ①昭和10年(1935年)
- ②昭和10年(1935年)
- ③大紫謙房
- ④純正(じゆんせい)
- ⑤山車は柱福しがなく四方正面を特徴とする。額の文字は荒木貞夫陸軍大将の筆。



◆源頼義

〔下宿〕

- ①明治8年(1875年)
- ②明治32年(1899年)
- ③古川農延
- ④誠意(せいい)
- ⑤彫り物は、山中の戦いの中で、岩を弓で砕き水を出した故事による。



◆仁徳天皇

〔南横宿〕

- ①明治8年(1875年)
- ②大正14年(1925年)
- ③三代目 安本龜八
- ④高きやに身寄り見れば(けむりたつ民のかまどは重いにけり)
- ⑤彫りは三国志「桃園の誓い」から始まり、各場面を10年の歳月をかけて彫り上げた大作である。



◆牛天神

〔新上川岸〕

- ①大正4年(1915年)
- ②江戸後期
- ③木葺
- ④上河岸(うわがし)
- ⑤祭手の彫り物は、保元平治の乱で助を立て、別業して源三右衛門と名付った源賴政の図柄。



◆浦嶋太郎

〔下新町〕

- ①江戸後期
- ②明治12年(1879年)
- ③嵐屋
- ④戀波(おんば)
- ⑤天幕は本金のしめ縄、玉簾と彫り物は取川四方の水鏡伝をかたどり、彫りも深く重厚な感じである。



◆日本武尊

〔北横宿〕

- ①明治8年(1875年)
- ②明治8年(1875年)
- ③嵐屋
- ④愛蘭(あいこく)
- ⑤彫り物(けやき)造りの山車。彫りは木彫りとは思えない立体感と生命力に溢れている。



◆桃太郎

〔中宿〕

- ①江戸時代後期
- ②大正11年(1922年)
- ③三代目 安本龜八
- ④豊稔(ほうえん)
- ※昭和34年を最後に、現在山車の曳き廻しは行われていない。



◆小楠公(楠木正行)

〔下分〕

- ①明治28年(1895年)
- ②昭和10年(1935年)
- ③大紫謙房
- ④下分(しもわけ)
- ⑤彫り物は四象騎の合戦の際、如意輪寺の壁に矢尻で辞世の句を書きつける楠木正行の姿。



◆小野道風

〔新橋本〕

- ①明治27年(1894年)
- ②明治4年(1871年)
- ③嵐屋
- ④雲龍(うんりゅう)
- ⑤額の文字「雲龍」は小野道風真蹟と伝えられている。



◆源義経

〔上宿〕

- ①昭和53年(1978年)
- ②昭和55年(1980年)
- ③四代目 面六 田口義男
- ④智勇(ちゆう)
- ⑤通/浦での源平の戦いの勇姿をかたどっている。

山車飾り・大人形

佐原の山車の大きな特徴の一つに、身の丈5メートル近くある大人形が山車の最上部に飾り付けられている点があります。江戸時代後期から昭和初期にかけて江戸、東京で活躍した名工、鼠屋福田万吉、原舟月、安本亀八、大柴護豊などの人形師達によって制作されたものです。現在ではこのような大首人形をつくれる職人はいなくなると言われ貴重な文化遺産となっています。



▲神武 船戸区
(明治20年(1887) 三代目原舟月作)

記紀神話によると日本各地の荒ぶる神々を平定し即位した初代天皇と伝えられています。仲川岸区も神武天皇を飾っています。

▼仁徳天皇 南横宿区

(大正14年(1925) 三代目安本亀八作)

『高きやに 昇りて見れば煙立つ 民のかまどは にぎわいにけり』の歌で有名な第16代の天皇で、人民の苦しみを見て課役を廃止するなど仁政で知られています。



▼浪裡白跳張順の水門破りの図

歌川国芳画「水滸伝」錦絵



▲下新町区
文久2年(1862) 石川三之助作

歌川国芳が描いた水滸伝の英雄達の錦絵を題材とした彫刻が、山車全体に飾り付けられています。

▲西関戸区のち密な龍の彫刻

嘉永年代(1848~1854) 四代目石川藤吉朝光作



山車彫刻

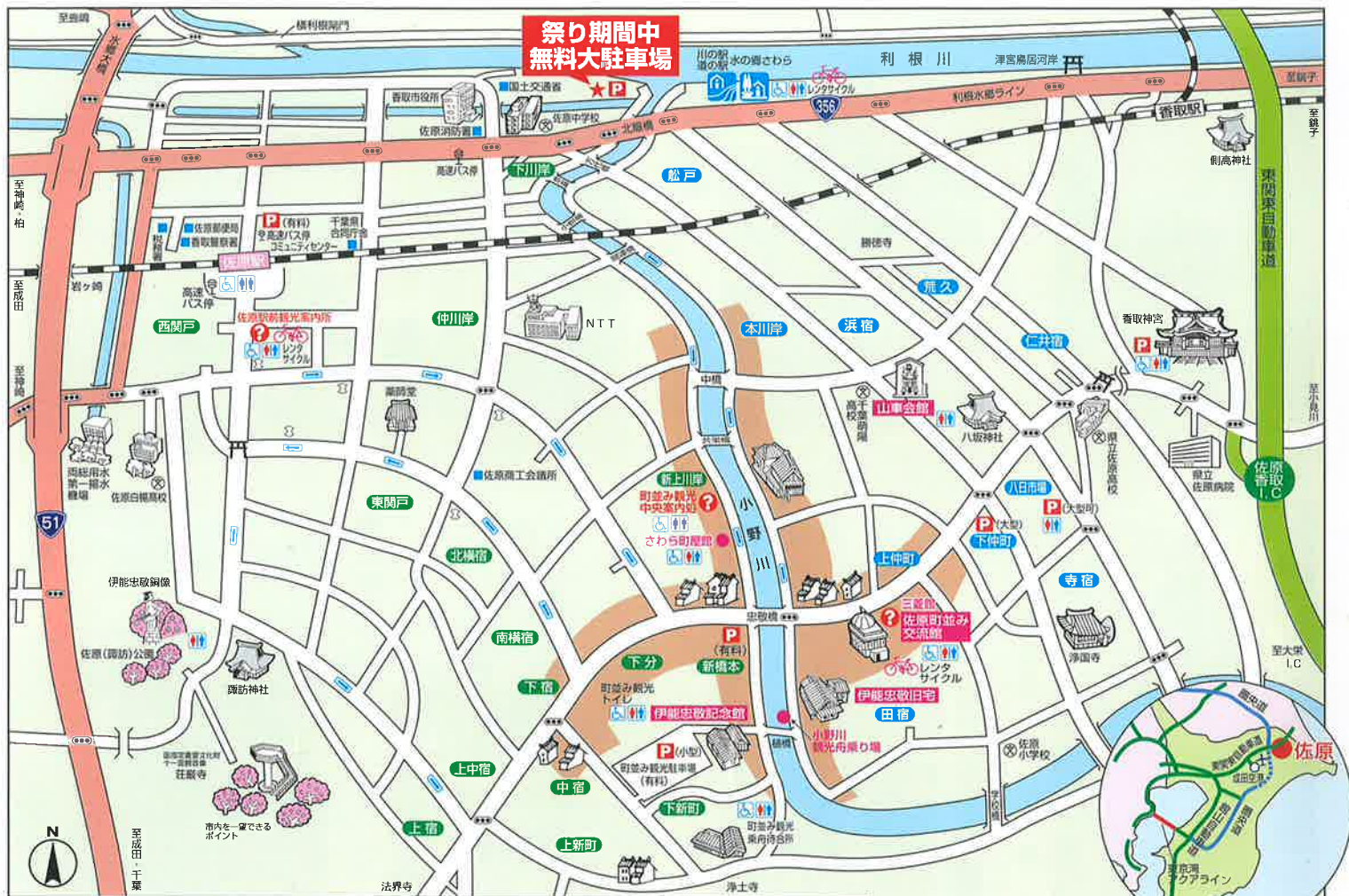
佐原の山車の周囲には樫(けやき)材で制作された関東彫りの重厚で豪華な彫刻が飾り付けられています。

制作は、後藤、石川、立川などの江戸の名工といわれた彫刻師により手掛けられ、構図は一般的な龍や花鳥、獅子だけでなく、日本神話や軍記物、伝承もの、中国の故事など様々なものがあり、登場する人物は表情豊かで躍動的に彫られています。

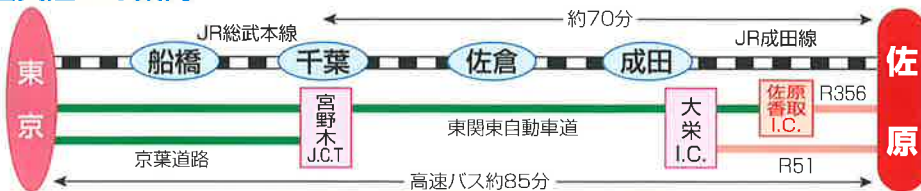
▶八日市場区

明治21年(1888) 小松重太郎光重・光春作
山車全体に太閤記を題材として、豊臣秀吉や竹中半兵衛、加藤清正等が彫られています。
写真は、加藤清正公。





交通のご案内



重要伝統的建造物群保存地区
 凡例 P 駐車場 ? 観光案内所 トイレ ♿ 身障者用トイレ

市内観光には、レンタサイクル(有料)を利用すると便利です。
貸出し場所 佐原駅前観光案内所・水の郷さわら 佐原町並み交流館

伝統の美 日本一の山車を展示 水郷佐原山車会館



7月と10月に行われる祭礼を華麗に彩る24台の山車が交替に2台展示され、本物の迫力をいつでも実感することができます。



【開館時間】

■ 通年 9時～16時30分
 休館日：月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始
 ※あやめ祭り期間中は無休で開館しています。

【交通案内】

■ JR利用(JR成田線)：JR佐原駅下車徒歩15分
 ■ 自動車(東京方面から)：東関東自動車道・佐原香取IC・県道佐原山田線経由約5分

【入館料】

	個人	団体 (15名以上)
大人	400円	350円
小・中学生	200円	150円

伊能忠敬記念館とセットで
お得な共通入館券 大人 800円
 小・中学生 350円

年間パスポートのご案内

市内3施設(水郷佐原あやめパーク・水郷佐原山車会館・伊能忠敬記念館)共通の年間パスポートを各施設にて販売中。
 ◎大人：2,000円 ◎小・中学生：1,000円

〒287-0003 千葉県香取市佐原イ3368(八坂神社境内) ☎0478-52-4104
<http://www.city.katori.lg.jp/sightseeing/matsuri/dashikaikan/index.html>